

徹底して住民サイドに立つ市政へ！ 市議会へ！



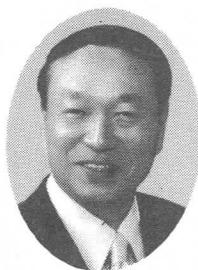
津久井 清の 共育だより

2014年4月号・第93号



発行 津久井 清と共育の会 273-0136 鎌ヶ谷市佐津間2-6
事務所 鎌ヶ谷市初富本町2-11-11 津久井自宅 047(44)5262(FAX兼用)

<http://www.linkclub.or.jp/~ktsukui/>
e-mail: ktsukui@air.linkclub.or.jp



3月市議会は、2月20日～3月14日まで開催され「市手数料条例の改正」等16議案を可決しました。津久井議員は、「今後の水害対策」等を質問しました。ご一読いただければ幸いです。

安心・安全
な街づくり

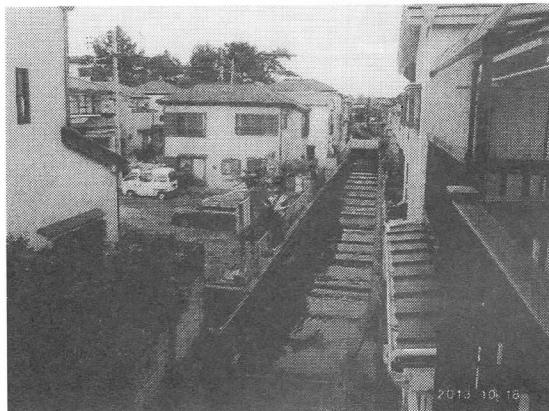
クククク 水害対策の取組みを急げ！

鎌ヶ谷市議会議員 津久井 清

昨年10月、台風26号による水害によって、鎌ヶ谷市内では床上浸水164件・床下浸水272件はじめ市制史上最悪の被害が発生しました。12月と3月議会での私の一般質問を通して、鎌ヶ谷市の今後の水害対策が極めて積極的な取り組みの方向であることが明らかになってきました。まず、大きな被害が発生している馬込沢地区では、①移転家屋が4戸に及ぶ二和川拡幅計画 ②大柏川第2貯留池の整備計画 ③横下貯留池からの流下量の3分の1制限の解除へなどが挙げられています。

他地区の水害対策では：☆佐津間・粟野地区→上流の一文字貯留池の拡張 ☆串崎新田→貯留池の増設などが今後、具体化されていきます。市民の不安を解消する為にも、早急な水害対策のとり組みが必要です。

通常の二和川の流れ



10月16日の洪水状況



(馬込沢住民の撮影・提供)

津久井清の

一般質問

3/7

(要旨)



①市の非正規職員の待遇改善

質問（津久井議員）4月から保育士やキラリ

先生等の臨時職員の時給が7・5%アップしますが、格差是正として評価したい。これら専門職の応募状況はいかがでしたか。

答弁（総務部長）臨時保育士は12名採用に対し応募は5名、キラリ先生は6名の採用に対し応募は7名でした。

質問（津久井議員）昨年、市職員に感染症が発症し影響が心配されました。市の非正規職員にも健康診断を実施して市民への影響を最小限にすべきと考えるがいかが。

答弁（総務部長）現在は週20時間勤務以上での臨時職員の健康診断は行っています。20時間以内でも子供担当などは健康診断を実施していますが更に対象の拡大も検討したい。

②今後の市の水害対策の方向は

質問（津久井議員）横下貯留池から市川方面への流下管の3分の1制限の解除を12月市議会で私は希望したが県に要望しましたか。



プラスチック再資源化のリサイクル
センターで調査を行う（軽井沢）

答弁（都市部長）昨年1月、副市長を先頭に県へ要望に出向き、県も制限解除に前向きとの回答をいただきました。

質問（津久井議員）佐津間・栗野地区でも大きな水害被害が発生しました。大津川上流の一文字貯留池の増強はどうなっていますか。

答弁（都市部長）上流の松戸市とも話し合った新たに7百㎥の貯留量を増強する方向で調整しています。

③プラスチック再資源をA評価へ

質問（津久井議員）昨年プラスチック袋の評価がA→Bに転落し、市の財政収入もゼロとなりました。市民からの反応はいかがですか。

質問を終えて

（津久井記）
①市の非正規職員の賃金アップは格差是正の上からも評価します。更に健康診断と昇給制度については本人のやる気向上の面からもきちんと保証していくべきと質問で強く迫りました。

②昨年1月、市制史上最悪の水害発生は当市の安心安全な街づくりの危機でもあります。幸いに積極的な水害対策が計画されています。今後も実行されるように追及をしていきたいと思います。

③クリーンセンターの現場を何度も見て「汚れたプラスチックは燃えるごみ袋へ」となりました。市民と共に今年こそ再資源化が可能なAランク評価を獲得しようではありませんか！

答弁（市民部長）昨年1月、市の広報を見た市民の皆様からの問い合わせが多くありました。B評価に伴う影響の大きさ、また正しい排出の方法についての意識の芽生えを感じられました。

質問（津久井議員）先週、私と担当課長でリサイクルセンターの現場を調査したが汚れたプラスチック類が多かった。汚れたプラスチックは「燃やすごみ袋」に入れるようにすべきと考えるがいかが。

答弁（市民部長）今年の協会の検査でAランク評価を得ることを最優先と考えます。今後、混乱が起きないように、汚れたプラスチックは「燃えるごみ袋」に入れるよう周知していきます。

市保育園 待機児童解消へ向けて

全国で保育園入園を望んでも入れない「待機児童」対策が大きな問題となっています。

鎌ヶ谷市でも本年4月時点で50名程の待機児童が見込まれています。そこで鎌ヶ谷市は待機児童解消に向けて本年は：

①南初富・道野辺保育園で計18

名の増②家庭的保育事業「アット

ぬぎ山保育園建て替えに伴い60名の増で合計101名の定員増を

実施する予定です。

かまがや 市民ニュース

ホーマママ」で23名の増、③く

めの増で合計101名の定員増を

要喚起で毎年、入園希望者が増加する傾向があります。

鎌ヶ谷市は抜本的対策として、来年4月の開園予定で90名規模の民間保育園を三橋記念館を取り壊した跡地に開園する予定です。入園希望者増の背景は、非正規労働者が増加して全労働者の4割を占めており、「共働きしないと生活困難」な状態が挙げられます。格差社会の改善などとも関連して「待機児童問題」を考えていく必要があります。

3月4日、市議会予算委員会で「学校図書館」関連の質疑が行われました。その中で市教育委員会は、「昨年度、小学校9校で子供への図書貸し出し数は約1万冊で万7千冊で、前年の約9万5千冊から4.3%の増加」「中学校5校では約1万千冊で前年の約9千4百冊から2.9%の増加」と答弁しました。

今、ネット社会の到来の中、じっくりと本を読む大切さが強調されています。

沢山の本を読む子供たちが急増した理由には最近、市内の小中学校すべてに学校図書館司書が配置されたことが挙げられます。各学校では司書が、子供達が図書室で本を読みたくなる環境にきれいに整備し、子供の読書相談にも積極的に応じています。

また、今年の学校図書購入費は小学校で約784万円・中学校で約698万円です。「この購入費は、文科省の定めた「基準財政需要額」を満たしており、県下では成田・浦安市と鎌ヶ谷市等6市のみです。

今後とも「本を読みじっくりと考える」子供達に育つよう見守りたいと思います。

PPS電力さらばに拡大の方向へ

鎌ヶ谷市の公共施設への電力供給先として従来の東京電力からPPS(特定規模電気事業者)

電力への転換が拡がっています。

当市は一昨年から市庁舎や福祉センターの電力をPPS電力に転換して、年平均220万円の経費削減となりました。

さらに来年度からは、市内小中学校や公民館等を含めた27か所の公共施設でPPS電力の導入も含めた入札を行う予定です。

憲法九条を守る意見広告へ…どうぞ！

今、憲法九条は一筋の光です。5月3日の一般新聞に左記の意見広告を掲載します。

一口千円・匿名も可→津久井へ申し込みを。

憲法九条を守る意見広告

私たちには、憲法九条を守り、世界へ、未来へ広げます

(4月15日〆切り)



沖縄・辺野古（名護市）を訪ねて想うこと

津久井 清



2月4日～5日、3人の市議会議員で沖縄の普天間飛行場～辺野古（名護市）を中心に現地調査に出かけました。ここでは辺野古について報告します。

4年前にも私は辺野古の現地調査をしましたが、その時に比べて基地移転に反対する「命を守る会」の団結小屋はひと廻り大きくなり健在でした。小屋の中には…

「祝・(稲嶺) 市長当選！」の大きな看板が誇らしげに掲げられていました。（写真）

1月19日の名護市長選挙は、「普天間飛行場を辺野古海岸沖に埋め立て移転させるか否か」が選挙の争点でした。

昨年12月末、仲井真沖縄県知事が自らの公約を「ほげ」として、辺野古埋め立てを認めると公言していました。そして、名護市長選に向けて自民党の石破幹事長は、「名護市に500億円の基金を作る」と現地で宣言して基地賛成派候補を応援しました。人口6万余の市に500億円！露骨な利益誘導を名護市民がどう判断するのか？全国から注目されました。

結果は、稲嶺市長派が4155票の大差で当選しました。※力ネより軍事基地反対・自然保護を選択したのです。

さて、ジュゴンの生息するきれいな名護湾に隣接し米軍基地があり、そのフェンスには全国から「軍事基地反対！ジュゴンを守れ！」等の激励の布旗が海風にはためいています。現地には、修学旅行の高校生など多くの人々が見学に訪れていました。私は、名護市民の選択を受け止め政府は辺野古への移転を再考すべきと思いました。

（※名護市長選結果 稲嶺 進19839票・末松文信15684票）

3月市議会報告会

☆4月27日（日）13時半～

市まなびいプラザ3階会議室

①津久井市議の3月市議会報告

☆弁護士無料法律相談

4月26日（土）・5月24日（土）・6月28日（土）

7月19日（土）の各13時～

事前予約制→申し込みは津久井へ

☆田中 優子さん講演会

今こそ戦争への流れを止めよう！

4月19日（土）14時～船橋市民文化ホール・券5百円→津久井へ

【編集後記】安倍内閣が閣議で集

団的自衛権を容認してしまうと、米国と共に戦争へ参加可能という。

自衛隊員で不足となれば若者・我

息子も戦争に強制参戦もあり得る。敵からの空襲もあり得る。殺すか

殺されるか…こんな重大な事を十

余名の閣僚で勝手に決めるな！

どうしても戦争をやりたいなら、正々堂々と憲法九条の改変を提案

し、国民投票で決めるべきだ！